

いわき農林水産ニュース

平成30年8月号(第162号) 発行 8月30日

ふくしまからはじめよう。

『食』と『ふるさと』新生運動ニュース



県オリジナル品種「涼豊」

今月はサンシャインいわき梨特集!
今年の梨は好天に恵まれ、
とても甘く仕上がっています!

目次

・【特集】いわきの特産	p.1
〔各種取組の実績(7~8月)〕	p.3~
〔お知らせ・連載記事〕	
・頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー	p.8
・いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果	p.10
・イベント情報	p.10
・GAP コーナー	p.11
・田んぼの学校(番外編)	p.11
・6次化商品紹介	p.12

【特集】いわきの特産

「サンシャインいわき梨」の季節です!

県内で最も早く出荷されるサンシャインいわき梨、今年も出荷が始まりました。市内でのキャンペーンなど、そのおいしさをPRする取組も目白押し!

1 「サンシャインいわき梨」の選果操業開始!

8月7日(火)、JA 福島さくらいわき梨選果場で平成30年度操業開始式が執り行われました。

式では、梨選果場運営委員会の草野富夫委員長より「今年も消費者に安全で安心な甘くておいしいいわきの梨をご賞味頂きたい」と挨拶がありました。結びに、(株)平果副社長鈴木光栄氏より販売宣言がありました。

サンシャインいわき梨は県内で最も早く出荷される梨です。選果初日は、「幸水」8tをいわき中央卸売市場へ出荷しました。今年は天候に恵まれ、甘い梨に仕上がっています。

「幸水」は8月いっぱいまでですが、8月末からは「豊水」、9月からは福島県オリジナル品種の「涼豊」、「新高」と出荷が続きますので、いわきの秋の味覚をお楽しみください。



(選果操業開始式の様子)

2 サンシャインいわき梨の歴史

古くには江戸時代、この地を治めていた棚倉藩(現在の平・赤井・小川地区)の藩主が、栽培を奨励した記録があります。本格的には、今から150年前の明治の始めから栽培されています。

平成29年は、栽培面積32ヘクタール、生産者76名、農協出荷量579トンとなっています。

いわき市で栽培されている梨はサンシャインいわき梨と名づけられ、日照時間が長く、水はけのよい傾斜地で栽培されているため、甘味のある、みずみずしい果実が収穫されます。



いわき農産物
マスコットキャラクター
「なしポチ」

3 梨の輸出について

サンシャインいわき梨は平成20年からタイ国、香港に輸出されていましたが、東日本大震災後、輸出は停止していました。昨年、ベトナム国で日本梨の輸入が解禁されたことをきっかけに、「幸水」3.4t「新高」1tをベトナムに輸出しました。現地では甘くてみずみずしい日本の梨は大変好評でした。



出発式の様子
(清水敏男いわき市長からの挨拶)



(輸出に向けて箱詰めされた梨)

今年度も昨年に引き続き輸出することから、8月20日(月)に梨共同選果場においてJA福島さくら主催による「ベトナム向け輸出梨出発式」が開催され、梨が安全に無事ベトナムに到着することを祈願しました。

平成30年は、「幸水」2.5t、「新高」3tに加えて「豊水」3tの計8.5tを輸出する計画です。(農業振興普及部)

市内のスーパーで「サンシャインいわき梨」のおいしさをPR♪

(「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーン)

当所では、県産農林水産物の安全性やおいしさをPRするため、市内のスーパーなどでキャンペーンを行っています。

平成29年9月には、市内のマルト中岡店においてサンシャインいわき梨(幸水)の試食を実施し、アンケート協力者にはいわき梨などをプレゼントしました。



(平成29年度キャンペーンの様子)

いわき農産物マスコットキャラクター「アグリ☆ファイブ」の「なしポチ」が登場し、買い物に訪れていた親子連れからも大好評で、試食いただいた方からは「いわきの梨はおいしい」「甘くてとてもみずみずしい」といった声がありました。(企画部)

お知らせ

今年度も、**9月2日(日)**※にマルト中岡店(いわき市中岡町6丁目1-8)で、サンシャインいわき梨をテーマに「おいしい ふくしま いただきます！」キャンペーンを行います!

サンシャインいわき梨・「なしジャム」(磐城農業高校の商品)の試食を行い、アンケート協力者にはいわき梨をプレゼントします(数量限定)。また、同時開催で磐城農業高校生による6次化商品の販売も行われますので、是非お越しください!

※7月号(第161号)の「イベント情報」にて8月26日開催とのお知らせをしておりましたが、日程変更して9月2日開催となりました。





「いわきワイナリーガーデンテラス&ショップ」が New Open! [7月24日(火)]

いわき産ワインの販売を通じ、農業・観光復興と障害者との共生社会（農福連携[※]）の実現を目指す6次化施設「いわきワイナリーガーデンテラス&ショップ」が、いわき市好間町中好間にオープンしました。

管理運営は、障害者の就労支援に取り組む認定 NPO 法人みどりの杜福祉会。同法人が有する市内3箇所（計2.8ヘクタール）のブドウ畑で障害者らが丹精込めて栽培したブドウを「いわき夢ワイン」として醸造し販売しています。

オープンした店舗は1階に直売所、地下1階にはワイン貯蔵庫を設け、ワインの有料試飲もでき、また年間を通じて様々なイベントを行う予定です。 （企画部）



※農業者と社会福祉法人等が連携し、農業分野での障害者等の就労を支援する取組。



（いわきワイナリーガーデンテラス&ショップ）

- 所在地
いわき市好間町中好間
字半貫沢 34-72
- 営業時間
11:00~16:00（不定休）
- 詳しくはHPへ
→iwakiwinery.com/

外国メディア関係者を招き、県産品の安全・安心を発信

[7月27日(金)]

外国メディアを通じた情報発信による風評払拭の取組として、フォーリンプレスツアーが開催され、小名浜魚市場に中国、ブラジル、スペインなどの外国人記者がやってきました。

これは、外務省が主催するツアーで、外国の報道関係者を招き、本県の現状や県産品の安全・安心等を取材する機会を提供するものです。この取材に基づく情報発信を通じて、広く国外でも正しい理解を深めていただくことがねらいです。

小名浜魚市場では、漁協職員よりいわき地区の漁船の復旧状況や、試験操業の水揚げ量等の現状や復興状況について説明がありました。また、水揚げされた魚介類のスクリーニング検査体制（放射性物質検査）等の安全・安心への取組についても、実際の作業現場のもとで説明が行われました。

参加者からは、「厳しい検査体制により、流通する魚介類の安全性が確認されており安心した。」とのコメントもありました。本県の風評払拭に繋がることが期待されます。 （水産事務所）



〔スクリーニング検査の作業現場と取材陣〕

「みずほの森プロジェクト」ボランティア活動

〔7月28日(土)〕

「みずほの森プロジェクト」ボランティア活動が開催され、平成27年度までに植栽したクロマツ苗木の生長を妨げる下草の刈り払い活動が行われました。



みずほの森プロジェクトは、みずほフィナンシャルグループが福島県の震災復興のため、地元山林組合、市、県と協定を結び、津波で被災したいわき市新舞子海岸の海岸防災林を対象に平成30年度まで植栽・下刈り等管理を行っていくものです。

当日は、台風の影響があるなか、県内のほか首都圏や東北から約80名のグループ職員が参加し、植栽木より大きく育ったつるや下草を手鎌を使いながら丁寧に刈り払いました。休憩時には、植栽したときの3倍ほどの大きさになったクロマツを感慨深げに見ていました。

今年度が協定の最終年度になりますが、プロジェクト活動の担当者によると今後も継続したいとの希望があり、携わりかたについて検討しているとのことでした。 (森林林業部)

いわき市内における企業の森林づくり活動について

企業の社会的責任(CSR)に対する関心の高まりから、CSR活動の一環として森林整備や森林保全などの森林づくりに取り組む企業が増えています。

いわき市内では、下記3箇所について協定を締結し、森林整備活動を実施しています。

「みずほの森プロジェクト」

- 協定地：いわき市平下大越地内(2.27ha)
- 締結者：(株)みずほフィナンシャルグループ
下大越共有山林組合、市、県
- 協定期間：平成26年度～平成30年度
- 活動内容：クロマツ植栽、下刈り等



「とうほう・みんなの森づくり」

- 協定地：いわき市常磐湯本町日渡地内(0.784ha)
- 締結者：東邦銀行、市、県
- 協定期間：平成27年度～平成28年度
- 活動内容：広葉樹植栽、下刈り



「イオン心をつなぐプロジェクト」

- 協定地：いわき市錦町須賀地内(1.08ha)
- 締結者：(公財)イオン環境財団、市、県
- 協定期間：平成29年度～平成31年度
- 活動内容：クロマツ、広葉樹植栽、下刈り



企業の皆様へ

森林を守り育て未来につなぐ「企業の森林づくり」に興味がありましたら右記までご連絡ください。なお、フィールドを提供していただける企業さんのご連絡もお待ちしております。

- 公益社団法人 福島県森林・林業・緑化協会
TEL:024-521-3245 FAX:024-521-3246
- 福島県いわき農林事務所 森林林業部
TEL:0246-24-6193 FAX:0246-24-6179

有機農業への理解を促進！オーガニックじゃがいも収穫体験 【7月26日(木)】

有機農業への理解を深めてもらうため、子育て世代の方を対象に「親子で遊ぶ・学ぶオーガニック（有機栽培）じゃがいも掘りとり体験会」を開催しました。

学校法人明照学園九品寺こども園に通う児童と保護者、併せて30名が参加しました。

九品寺こども園で保護者の方々に有機農業や有機 JAS マークについて説明し、その後、バスに乗って平下大越で有機農業を営む小林勝弥さん・美知さんの有機栽培を行っている畑に移動しました。小林さんから畑の説明を受けた後、有機栽培のじゃがいもの掘り取りを行い、その後、茹でたてのじゃがいもを試食しました。

保護者からは、「良い機会でした。有機 JAS マークの意味が分かり、今度探してみたい。」などの感想が寄せられ、有機農産物に対する理解が深まるとともに親子で楽しい時間を過ごしていただけたと思います。

〔浜通り有機農業担当（双葉農業普及所）〕



（じゃがいも収穫体験の様子）

ドローンを用いた水稻の葉色診断実演会

【7月17日(火)】

四倉町下仁井田地区において、ドローンを使用した水稻の葉色診断を行いました。通常、葉色診断はカラースケールなどを用いて、ほ場を部分的に診断するため、その診断結果を基に追肥をすると生育差が生じることがあります。そこで、ドローンを用いることで、上空からほ場全体の葉色を確認することができ、その場で生育差を確認することができます。さらに、今回



（飛行風景）



は実施できませんでしたが、葉色診断結果と可変追肥対応の無人ヘリコプターを連動させることで、どのほ場でも高品質・安定生産を行うことが可能になり、産地全体の評価を上げることができます。興味ございましたら、当所（TEL：0246-24-6162）までご連絡ください。

（農業振興普及部）

平成30年度いわき地方高温・少雨に関する対策会議

【8月3日(金)】

いわき地方高温・少雨に関する対策会議を関係機関・団体参集のもと開催し、6月から続く高温・少雨について農業生産現場における現状と今後の技術対策等の情報共有と対応の検討を行いました。

いわき地方では、当面、大きな水不足の心配はないものの、引き続き農畜産物の生育状況や病害虫の発生状況等を把握し、適格な対策技術の指導を行うこととしました。

今後も、気象経過と作物の生育等について注視していくとともに、各種相談へ対応してまいります。（農業振興普及部）



（会議の様子）

フレッシュ農業ガイド講座を開催！

〔8月3日(金)〕

福島県立磐城農業高校の生徒を対象に「フレッシュ農業ガイド講座」を開催しました。この講座は、農業の魅力に触れる機会を設け、就農意欲を高めてもらおうと2年前から開催しており、今年度は同校の園芸科、食品流通科の1年生約80人が参加しました。



(講座の様子)

園芸科は、いわき市のピコブルーベリー農園、下山田園芸、ファーマーズハウスさわを訪問し、食品流通科は、ピコブルーベリー農園と、楡葉町の農事組合法人蛭田牧場を訪問しました。

各農業法人では、経営内容や生産状況の見学や収穫体験を行いました。

生徒たちは、農業のやりがいや苦労したことなどを興味深く聞いたり、果実や加工品を味わい、「おいしい」と歓声をあげていました。

(農業振興普及部)

建設工事安全推進協議会及びいわき森林土木協会通常総会

〔7月24日(火)〕

福島県いわき農林事務所管内建設工事安全推進協議会(当所発注工事に関する労働災害の未然防止、就労者の安全衛生及び作業環境の向上を図るための組織)は、7月24日に協議会を開催し、今年度の安全パトロール等事業計画を協議した後に、いわき労働基準監督署・三瓶詔宏安全衛生課長による管内の労働災害発生の状況、労働災害予防等について説明を受けました。



(総会の様子)

続いて、いわき森林土木協会総会では、任期満了に伴う役員改選で水野谷正一会長が再選され、新体制が発足したほか、優良森林土木工事及び優良工事監督者の表彰が行われ、保育2901業務「新舞子地区」(当所発注)で高い評価を受けたいわき市森林組合と、同組合・齋藤秀彦氏が受賞しました。

(総務部・森林林業部)

水産加工関連食品表示研修会を開催

〔8月21日(火)〕

食品表示法の施行から3年が経過し、食品表示に関する消費者意識が年々高まりつつある中、食品表示法について、さらに理解を深めていただくため、当所主催による水産加工関連の内容を中心とする研修会を小名浜魚市場で開催しました。



(研修の様子)

当日は、当所による食品表示法に関する説明のほか、いわき市保健所による保健事項の説明もあり、市内の水産加工業者を中心とする22名の参加者は最後まで熱心に聞き入っていました。また、説明終了後も個別の質問や相談をされる方や情報交換をされている方などがおり、会場の熱気はしばらく冷めやまず、盛会裏に終わりました。

今回は、本県の水産業の再興のために日々奔走されている方々の集まりということもあり、参加者から熱意とエネルギーをいただけた有意義な時間となりました。

(企画部)

海まち・とよまパークフェス DX 開催！

〔8月19日(日)〕

海まち・とよま市民会議主催により、薄磯地区をメインに、沼ノ内、豊間の3地区を会場に海まち・とよまパークフェス DX が開催されました。

沼ノ内地区では、地区の漁業者が主体となって小学生以下の親子を対象とした乗船体験のほか、ホッキむき体験、海のいきものタッチプール、地元水揚げ物を使った料理の販売を実施しました。



(タッチプールの様子)

乗船体験では、風がやや強く時折波しぶきがかかることもあり、乗船者はその迫力に圧倒されていました。ホッキむきでは、最初はぎこちなかったものの、漁業者の丁寧な手ほどきを受けながら上手にホッキをむいている体験者が多く、ホッキの消費拡大に一役買っていました。タッチプールでは、子どもたちが普段目にするものの少ない生きたウニ、ナマコ、カニなどを歓声を上げながら触っていました。



(ホッキむき体験の様子)

浜のかあちゃん飯として、いわき市漁協沼ノ内女性部が販売した、豊間漁港沼ノ内地区に水揚げされたメヒカリの唐揚げやホッキ飯は午前中のうちに売り切れてしまうほどの大盛況でした。

このようなイベントをきっかけに、福島県産水産物への理解や消費拡大につながることを期待します。(水産事務所)

トピック

いわき市川前産りんどう 本格出荷開始！

7月24日(火)、いわき市川前産のりんどうが市場へ出荷開始されました。JA福島さくらいわき地区本部川前リンドウ生産部会では一昨年から栽培を始め、本年度より本格出荷を迎えました。出荷にあたっては、7月20日の目揃い会を経て収穫のタイミングや荷造りの方法などを統一してきました。

今年の高温・少雨にも負けず、色の良い立派なりんどうがお盆に向け出荷されました。9月いっぱいには市内直売所でも販売されますので、見かけたら手にとってみてください。

また、新しく一緒に栽培を始めたいという方も、随時募集しています。(農業振興普及部)

※お問い合わせ：いわき農林事務所 農業振興普及部 TEL：0246-24-6161



(収穫待ちのりんどう)



(目揃い会の様子)

頑張るいわきの農業関係者リレーインタビュー！Vol.8

地域資源を最大限に利用し、仲間とともに農業の魅力を伝えます。

ファーム白石 白石長利さん・助川智洋さん

前回取材にご協力いただいた田人町の蛭田さんから紹介のあった、いわき市小川町の白石長利さん、そして白石さんのもとで新規就農研修を受けている助川智洋さんにインタビューしました！

「旬」を大切にすれば、自然の力で野菜はおいしくなるんです！

白石さん：ファーム白石では、水稻を3ha、野菜を1.6ha生産しています。野菜はブロッコリー、キャベツ、里芋、なす、トマト、にんじんなど、年間15種類栽培しており、無農薬・無化学肥料で自然の流れに任せて栽培する「自然農法」を取り入れています。農薬や化学肥料を使わなくても、いわきの気候や土壌に適した野菜をそれぞれの旬の時期にしっかりと栽培すれば、自然の力で病気や虫食いもなく、おいしく元気な野菜が育ちます。



右：白石 長利さん(37)
左：助川 智洋さん(32)

就農するからには何か新しいことを！「自然農法」への挑戦

白石さん：私は、代々農家を経営する白石家の長男として生まれ育ちました。高校生のときに体験したアメリカでのファームステイをきっかけに、農業をやりたいという思いが強くなりました。農業も遊びも全力で楽しむアメリカの農家の自由な姿に衝撃を受け、「農業人」っていいな、と強く思ったんです。

高校時代の私は、「就農するからには何か新しいことをやりたい！」と考え、当時話題になり始めていた自然農法に着目しました。早速、自然農法について勉強し始め、東京での4年間の学び



企業向け農業研修の田植え作業にて、白石さん(左)と研修を受けた企業の皆さん

を経て、祖父、父とともに実践しました。試行錯誤で失敗もありましたが、最終的にはすべての野菜を自然農法で生産することに成功しました。

また、就農して数年後には、農業の魅力を伝えるため、一般の方向けに農業体験を始めました。最近では、企業向けの農業研修も受け入れており、農業仲間の協力も得ながら農業の魅力を発信しています。

一人前の担い手を目指して

～ 新規就農研修生 助川智洋さん ～

助川さん：私は4月から、白石さんのもとで農業研修を受けています。農業を始めたいと思ったのは、「農家で食べた野菜がおいしかった」という単純な理由からでした。親戚の農家で、採れたばかりの新鮮な野菜を食べた時、「こんなおいしい野菜を毎日味わいたい」、そして「自分で作ることができたなら最高だな」と思ったんです。白石さんのもとで2年間研修を受けて、やがて本格的に農家を経営することを目標に、日々勉強中です。

助川さん：白石さんのもつとで学んでいて感じることは、なんといつても、人と人とのつながりをとつても大切にしていることです。市内の農家やシェフの方と意見交換をしたり、一緒にイベントに参加したりと、農業者同士だけでなく様々な分野の方とコミュニティをつくっています。これまでのやり方にとらわれない白石さんの姿に、「ただうまいものを作っているだけじゃだめなんだ」と気づかされました。

白石さん：一次産業の中でも野菜生産者は、農業仲間はもちろん、他の業種の人とも関わる機会が多いと思います。例えば料理一つとっても、肉料理にも魚料理にも野菜は欠かせませんよね。野菜は、様々な分野から必要とされ、その分コミュニティを広げるチャンスに恵まれていると思うんです。私たちにとって、それを活かさない手はありません。



生産者や料理人など異業種同士でタッグを組み、商品開発やミーティング活動等にも積極的に参加しています。

助川さんには、農作業だけでなく野菜の配達やイベント参加など人と関わる仕事もできるだけ経験してもらい、どうやって人と関わっていくのか、消費者は生産者に対してどんなことを思っているのか、実際に交流して感じ取ってもらえたら嬉しいです。

農業はある意味「最強」!?

白石さん：農業はある意味「最強」だと思っているんです。生産から加工、販売までの課程で自由に動くことができるし、そういった多角的なアプローチによって、「おいしく」も、「面白く」もなります。ただ作るだけが農業ではありません。人と人がつながれば、作った野菜を食べてくれる人は自然と見つかるし、見つかったらあとは丹精込めて作るだけですから。



農業体験に来てくれる人たちにも、自分の子どもたちにも、私たちの姿を見て「農業は楽しい!」と思ってもらえたら嬉しいです。ですが、まずは自分たちの代で、地域資源を最大限に利用し、人とつながりを強くして仲間を作っていくこと! その信念を忘れずに、これからも魅力ある農業の発信を続けていきたいと思っています。

ファーム白石

TEL : 080-2810-4033

所在地 : いわき市小川町下小川字味噌野 16

商品紹介

「焼きねぎドレッシング」

ファーム白石のねぎを使い、「Hagi フランス料理店」(いわき市内郷)の萩春朋シェフと共同開発したこだわりの商品。お求めの方は、上記の電話番号へお問い合わせください!

いわきの農家とシェフがタッグを組んだ“オールいわき”の商品です!



★新規就農のご相談いつでもお待ちしております★

いわき農林事務所 農業振興普及部 経営支援課 TEL : 0246-24-6161

お知らせ

いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（平成30年7月分）

□ 農林畜産物の検査結果

平成30年7月の農林畜産物モニタリングでは、検査した13品目22検体すべてにおいて放射性セシウムが基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

内訳は（表1）のとおりです。また出荷制限状況は（表2）のとおりです。 （企画部）

（表1）放射性セシウムが基準値以下の品目と検体数

サヤインゲン 1、ピーマン 1、ツルムラサキ 1、カボチャ 1、トウモロコシ 1、ナス 1、小麦 1、六条大麦 1、菌床しいたけ（施設）4、菌床なめこ（施設）1、牛肉 3、豚肉 1、原乳 5

（表2）出荷制限および出荷自粛品目（7月末現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る*）、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ（摂取も制限）
出荷自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）
	果物	クリ（該当生産者に限る）

※わらび（栽培）は該当生産者6名のほ場に限り出荷制限が解除されました。

□ 海産魚介類の検査結果

平成30年7月の水産物モニタリング検査では、452検体の魚介類を検査し、放射性セシウムの基準値（100Bq/kg）を超えたものではありませんでした。

放射性セシウムの検出限界値未満の割合は、平成30年7月には99.6%となっています。8月20日現在の出荷制限等指示魚種は表の7種類になっています。 （水産事務所）

（表）海産魚介類に関する国の出荷制限等指示

ウミタナゴ	サクラマス	ムラソイ
カサゴ	ヌマガレイ	ピノスガイ
クロダイ		

平成30年8月20日現在

イベント情報

産地見学ツアー いちご・ねぎ・なし

- 日 時 平成30年9月8日（土）
13:00~17:00
- 集合場所 福島県いわき合同庁舎 駐車場
- 主 催 新たなふくしまの未来を拓く園芸振興
いわき地方推進会議

いわき市内のいちご、ねぎ、日本なしの3つの農家を巡る産地見学のバスツアーを実施します。農家を訪問するだけでなく、生産者と直に話すこともできます。「新たに農業をはじめたい」「定年後に就農を考えている」「他産業で働いているが農業に興味がある」など、農業に関心のある方は是非ご参加ください。

↓参加申込書ダウンロードはこちら↓

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/agri-tourism30.html>

いちご・ねぎ・なし

現場を 生産者と イメージを

見る + 話す = つかむ

産地見学ツアー

9月8日（土）13:00~17:00

集合 | いわき合同庁舎 駐車場
対象 | 就農に興味をお持ちの方

いわき市内の「いちご・ねぎ・なし」の産地を見学するバスツアーを開催します！ ※参加無料、定員15名

□内容 バスツアーを通じて、1日で3つの生産者の農場を見学し、生産者と直接話をする場を設けます。

□対象 各品目に興味のある方（定年後の就農希望、他産業で働いている、という方も歓迎）

□申込 申込書を記入して、郵送またはFAX、もしくは、電話またはメールで参加の旨をお伝えください。

主催：新たなふくしまの未来を拓く園芸振興いわき地方推進会議 事務局：福島県いわき農林事務所
TEL: 0246-24-6160, FAX: 0246-24-6196, Email: shinkouhukuyuu.a07@pref.fukushima.lg.jp

産地見学ツアー申込書（※切：9月5日） 送付先：〒970-8076 いわき市ツツミ本1-15 福島県いわき農林事務所農業係受付部

■名前（ふりがなも）	■年齢	■住所	■電話番号
■興味のある品目			

GAP コーナー

GAP (Good Agricultural Practice) : 「農業生産工程管理」

GAP 取得事例紹介～福島県立磐城農業高等学校～

平成30年3月20日に米でJGAPを取得した福島県立磐城農業高等学校の農場管理担当である磯上先生、川崎先生と生徒の皆さんにお話を伺いました。

磐城農業高等学校は、授業で取り扱われるGAPについて、生徒が実際にGAPに取り組むことで学んで欲しいと考え、第三者認証GAPを取得することを決めました。

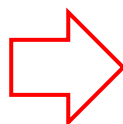
実際にGAPに取り組んでいる園芸科作物専攻の3年生(3名)からは「細かい作業にも着目し、自発的に取り組むことが多くなった。」との意見があり、生徒自身の意識変化を感じるが多くなったそうです。特に、食品安全については関心が大きくなり、安全安心な農産物を消費者へ提供することに、生徒たちは責任とやる気を感じているとのことでした。

磐城農業高等学校は今後、他の品目での第三者認証GAP取得も検討しているとのことでした。

(農業振興普及部)



(GAP 取得前)



(GAP 取得後)



番外編



児童たちにこれまでの「田んぼの学校」の感想を聞いてみました!

今回は、これまで行ってきた「田んぼの学校」の様々な活動(開校式、苗植え、生きもの調査、生育状況の確認)を通して、菊田小学校・5年生児童たちがどんな感想を持ったか、また新しい発見があったか等について聞いてみました!

「マコモダケの苗植えや、田んぼの生きもの調査が特に楽しくて勉強になった。」「マコモの収穫が今から楽しみ。」という感想が圧倒的に多い結果でした。実際に泥に触れたり、生きものを直に観察したことが児童にとって印象深かったようです。また、「マコモダ



(5/14 苗植え「足が抜けないよ!」)



(6/21 生きもの調査「泳いでる?」)

ケや田んぼに生息している生きものに興味を持った。もっとマコモダケや田んぼの生きものを知りたい。」と答えてくれる児童もいました。「田んぼの学校」を通して、新しいことに興味を持ってもらえたようです。

今後も、児童たちが楽しく学ぶことができるよう、田んぼの学校の活動を、地域の方々と一緒に引き続き盛り上げていきたいと考えています。9月、10月はマコモダケの収穫、そして収穫したマコモダケの実食、収穫祭等たくさんの活動が控えていますのでお楽しみに。

(農村整備部)

こだわりと美味しさがつまった
いわき自慢の6次化商品をご紹介します！

大久町の「ピコ ブルーベリー農園」では、ブルーベリー・ブラックベリー・ラズベリーなど約1,000本、約70品種を無農薬栽培で1粒1粒大事に育てており、甘みたっぷりの果実を使った6次化商品を販売しています。新商品の「飲む酢 ブルーベリー酢」は、飲みやすいマイルドな味に仕上がっており、後味すっきりで、ヨーグルトにかけたり、炭酸水割りや焼酎割りで美味しくいただけます。その他、濃厚ですっきりとした味わいのジュース、口いっばいに広がる香りを楽しむことができるジャムも人気です。美味しいものを多くの方に届けたいという熱い思いが詰まった、園主自慢の味をぜひお召し上がりください。



園主の笑顔です。

お問い合わせ

ピコ ブルーベリー農園

- いわき市大久町小久字成沢61-186
- TEL.090-6251-3013 ●FAX.0246-82-4302
- E-Mail:berry_mory@yahoo.co.jp

全商品、通年販売

飲む酢 ブルーベリー酢
●内容量/200ml
●販売価格/780円(税別)

ブラックベリージュース(左)
ブルーベリージュース(右)
●内容量/各720ml
●販売価格/各980円(税別)

ミックスベリージャム(左)
ブルーベリージャム(右)
●内容量/各120g ●販売価格/各680円(税別)

●販売店舗
ピコ ブルーベリー農園直売所/ワンダーファーム森のマルシェ
道の駅よつくら港/田舎んぼ/かんぼの宿いわき売店

※新鮮なブルーベリーを思う存分堪能できるブルーベリー摘み(食べ放題 中学生以上1,000円/小学生以下500円)の開催期間は8月下旬までの予定ですが、天候により異なる場合がありますので、詳細は農園までお問い合わせください。



編集後記

暑い夏も終盤となり、今年も「サンシャインいわき梨」がおいしい季節を迎えました！昨年度解禁したベトナムへの輸出も始まり、昨年度より輸出量も増える計画で、ますます多くの方にいわき梨のおいしさを知っていただくチャンス！ですね。いわきでは、幸水、豊水、涼豊、新高と個性豊かな梨が生産され、それぞれの旬の時期に違った味覚を楽しむことができます。ニュースタイトル下の「涼豊」は福島県オリジナル品種で、9月下旬～10月上旬においしく食べられます。「サンシャインいわき梨」をお求めの際には、味や食感の違いにも着目して、お気に入りの品種を見つけてみてはいかがでしょうか。

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
(県いわき合同庁舎 3階)
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>



いわき農林水産ニュース